

国際活動①—国際がん登録協議会のアジア地区理事就任と IACR 2009 のご案内

津熊 秀明

大阪府立成人病センター 調査部

岡本理事長の推薦、国際がん登録協議会 IACR アジア地区正会員による選挙を経て、2008 年 11 月より IACR アジア地区理事に就任しました。任期は 4 年ですが、今後 2 年間は、タイ・コンケン大学の Surapon Wiangnon 先生と私とでこの任を勤めます。地区理事の主な役割は、地区内の各がん登録の活動と課題を把握し、理事会に報告することとされています。アジア地区のがん登録のネットワークづくりも重要な課題になる可能性もあります。前任の早田先生のように参らないかと思いますが、全力を尽くす所存ですので皆様方のご支援、ご協力を宜しくお願い致します。ところで、IACR に加盟しているわが国のがん登録は 10 登録で、本協議会加盟の道府県市がん登録事業の 1/3 にも満たしません。国際的な活動に参加することによって得られるメリットはととても大きく、2010 年には IACR の年次総会を日本で開催する事も決定しています。未加入の登録はこの際是非会員となられるようお勧め致します。

2009 年の IACR 年次総会は、米国腫瘍登録士協議会の年次研修と連動して 6 月 3-5 日にルイジアナ州・ニューオーリンズで開催されます。メインテーマは「がん対策の立案におけるがん登録資料の活用、および、パブリックヘルスへの影響」で、サブテーマとして、1) がん登録とがん検診、2) 生存率および生存者に関する課題、3) 小児がん、4) データの質、5) 動向と将来予測、の 5 つが掲げられています。また、年次総会の一環として研修会が、ア) 生存率分析、イ) がん負担の将来推計、ウ) データの質、および、国際比較、の 3 つのテーマで企画されています。主催者は、がん登録資料を活用した調査研究がパブリックヘルスにどのように影響を与えたのかを、実例を持ち寄り検証したいと述べています。このニューズレターが発刊される頃には演題申し込みの詳細が IACR のホームページ (<http://www.iacr.com.fr/>) に掲載されると思います。ニューオーリンズはジャズの発祥地でもあり、積極的に演題を提出し、国際的な活動の息吹に触れることで、遅れをとっているわが国のがん登録の発展に繋げて

いこうではありませんか。

国際活動②—宮城県における組織型別肺がん罹患率の推移 (IACR2008 ポスター発表より)

西野 善一

宮城県立がんセンター

国際がん登録学会 (IACR) 2008 年年次総会は昨年の 11 月 18 日-20 日にオーストラリアのシドニーで開催されました。今回、口演は 10 のセッションに 62 の演題、ポスターセッションには 94 の演題があり、私は宮城県における 1979-2003 年の組織型別肺がん罹患率の推移をポスターセッションで発表しました。

その概要ですが、結果としては腺癌の年齢調整罹患率 (標準人口は世界人口) が多くの欧米諸国で既に認められているように男女とも増加する一方、男性の扁平上皮癌は頭打ちから減少に転じ、その結果 1994-1998 年以降では男性腺癌の年齢調整罹患率が扁平上皮癌を上回りました。また男性の出生コホート別の検討では、扁平上皮癌の罹患率が 1934-1938 年以降の出生コホートで減少傾向にあるのに対して、腺癌は 1929-1933 年の出生コホートで一度増加が止まった後 1939-1943 年以降の出生コホートで再度増加するような傾向を示しました。扁平上皮癌と腺癌で異なる傾向を認めるわけですが、この原因として考えられることの一つとしては 1960 年代に急速に進んだフィルター付きたばこの普及が考えられます。それまでの両切たばこに比べてフィルター付きたばこは喫煙者が深くまで煙を吸い込むため肺の末梢に多く発生する腺癌のリスクを増加させるとされています。これからフィルター付きたばこで喫煙を開始した世代の肺がんの罹患数が増加する時期に入ることから特に今後の腺癌の増加が懸念されるようです。

この発表が最終日恒例のポスターアワードでポスター賞に選ばれ、ボクシンググローブをつけたカンガルーの人形 (ハンドパペット) と賞状をありがたくいただきました。プレゼンテーションの時は聴衆も数少なく余り関心を持たれていないのかと思ってしまし